

(2) - 3) ①草原保全と青少年への環境教育活用（認定NPO法人緑と水の連絡会議）

世界遺産石見銀山に近い島根県大田市三瓶山の草原において、外部の支援者を取り込みながら保全活動を実施。草原フィールドを活用して保全活動と一体となった国際ワークキャンプや小学校の環境教育を行うことで、地域内外への理解と評価が高まっている。多様な主体の協力によって数多くの助成・委託・寄付プロジェクトが実施されており、草原保全や生息する希少植物の保護、草原にかかわる地域文化の伝承に役立てられている。

a. 取組の背景と経緯

世界遺産石見銀山に近く草原景観の美しさが高く評価されている島根県大田市の三瓶山は、近年有効な活用策が見いだせず、管理する人材も不足するなどして将来的な維持が難しい状況となっていた。

こうした状況を受け、それまで里山におけるマツクイムシ被害防止の空中散布に対する反対運動を行っていた地元市民団体が、反対運動や請願運動ではなく、自分たちで自主的に実施するテーマとして草原保全に取り組もうという機運が高まり活動がスタートした。様々な助成金や内外の支援者・賛同者・ボランティアの協力を得て、草刈りと野焼きを中心とする保全活動が毎年継続的に実施されている。



写真：ボランティアの協力のもとで行われる三瓶山の野焼きの様子
(認定NPO法人緑と水の連絡会議ホームページより)

b. 活用方法

■青少年への環境教育活用

草原保全をテーマに、NPO国際ワークキャンプと共催で、世界の若者を招いてボランティア合宿を行っている。また、小学生への環境教育「みーもスクール」を開催し、草原の魅力を伝える体験を提供している。毎年3月の野焼きの時期に合わせて行われる国際ワークキャンプでは、地元小学校を訪問し環境教育プログラムを展開している。

■エコツアー利用

自然観察会や観賞会、保全にかかわる各種ワークショップを通じたエコツアーを草原植生の見ごろに応じて定期的で開催し、観光面でもPRしている。



写真：国際ワークキャンプにおける野焼きの防火帯作り
(認定 NPO 法人緑と水の連絡会議ホームページより)

c. 保全活動や野生生物への効果

外部からの協力による継続的な活動は地元住民や行政の理解を得て、参加者が着実に増えるようになった。2008年には国税庁認定NPO法人となり、民間企業から行政に至るまで数多くの草原保全を主要テーマとする助成・委託・寄付プロジェクトが実現している。